Members New Action

在宅勤務でオフィスを“交流の場”に転換

趣味実用書などの出版社、メイツユニバーサルコンテンツ（東京都千代田区）は、6月末に同社オフィスをリニューアル、オフィスから“交流の場”に替えた。同社ではテレワークが普及・定着したため、従来の仕事をする場としてのオフィスの役割を改め、「麹町ベース」と名づけて、社員が集い交流する場、および取引先・地域の交流促進の場とした。

メイツユニバーサルコンテンツでは、2020年2月からテレワークを導入、緊急事態宣言が解除されてもテレワークを継続実施し、今ではその実施率が70～100%になっているという。これにより、オフィスの役割について考え直した結果、「必要だから行くのではなく、従業員が来て楽しく、気分転換など、行くこと自体を目的できる場所にした」。

取引先や地域の交流促進の場としては、まず取引先に対しては、定期的に業務外の交流機会として「オープンサロン」を開催、偶発的なビジネスチャンスの招来や、人間関係の構築、知見の共有を図る。地域には、メイツユニバーサルコンテンツが発行する書籍などの著者・監修者などによる、講演会や読書会などを実施する予定という。新型コロナ感染症拡大のリスクが減衰し、安全が確保でき次第始めたいとしている。

BEFORE

AFTER